

開拓の村に来る前に、自分の家を調べてみよう!

屋根(やね)

※葺(ふ)く…板(いた)、瓦(かわら)、茅(かや)などで屋根を覆(おお)い、つくること。

■茅、萱(かや)

屋根を葺くのに用いる草をまとめた呼び名、チガヤ、スゲ、スキなどのこと。

■瓦(かわら)

主に屋根を葺くのに用い、粘土(ねんど)を一定の形に固めて焼いたもの。丸瓦、平瓦、鬼瓦(おにがわら)、敷平瓦(しきひらがわら)など様々な種類があります。

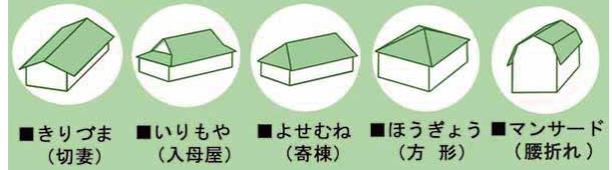
■トタン

亜鉛(あえん)でめっきした薄(うす)い鉄板(てっぱん)。屋根の葺き方によって、平葺、葺葺(ひしぶき)などと呼ばれます。

■桎板(まさいた)

年輪に対して直角に割(わ)って作るうすい板を桎と呼びます。主にトドマツ、エゾマツなどが使われます。本州以南ではこのような板を柿板(こけらいた)と呼ぶ事が多く、サワラ、クリ、スギなどが使われます。

屋根のかたち



壁(かべ)

■土

土をもりあげて壁にするのではなく木や竹などで骨(ほね)組みを作り、わらや麻(あさ)を混(ま)ぜた土を塗(ぬ)りこめて造(つく)ります。北海道では寒さを防(ふ)ぐ手段として、板壁(いたかべ)の内側(うちがわ)などに多く使われました。

■漆喰(しっくい)

消石灰(しょうせっかい)にふのり・苦汁(にがり)などを加え、これに糸くずなどを混ぜ合わせて練(ね)ったものをしっくいとよび、土壁にぬって仕上げます。火や水に強いといわれ、商家(しょうか)や倉(くら)などによく使われました。

■木

民家(みんか)に板壁が普及するのは薄い板をつくるための技術的な問題から、江戸時代に入ってからのことです。北海道では豊富な材料を使い、多くの板壁の家が建てられました。ログハウスのように角材(かくざい)や丸太を壁に使う家もあります。

■石

丈夫(じょうぶ)で火に強く、寒さにも耐(た)える材料に石があります。北海道では凝灰岩(ぎょうかいがん)と呼(よ)ばれる石が多く使われました。凝灰岩はたくさん取れ、加工(かこう)もしやすかったので、倉庫(そうこ)などにもよく使われました。小樽運河(おたるうなが)に並(なら)ぶ石倉(いしぐら)が有名です。

■レンガ

粘土に砂を混ぜ、型(かた)に入れて固(かた)め、乾燥(かんそう)させてから、かまで焼(や)いてつくります。レンガは耐火性(たいかせい)と耐久性(たいきゅうせい)に優(すぐ)れています。北海道では北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)が有名です。

床(ゆか)

■畳(たたみ)

わらを糸でさしかためた床(とこ)にいぐさで編(あ)んだ表(おもて)部分をつけ、板間などにしくもの。しぎだたみ。
※いぐさ…イグサ科の多年草で、湿地に自生。また、水田にて栽培。髓(ずい)を灯心(とうしん)に使うことから別称トウシンソウとも言う。

■板間(いたま)…板張床

床を板張りにしたところ。きれいに仕上げた板を使う。板張床の上に畳を置いて使っている場合もあります。

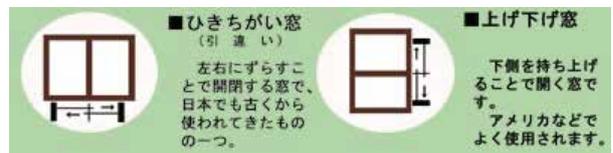
■土間

土そのままの場所や、石灰・赤土・砂利(じゃり)などに苦汁(にがり)をまぜ、水を加えて練り固め、地面に塗(ぬ)って叩(たた)き固めたもの。
※苦汁…海水を煮つめて製塩した後に残る母液。主成分は塩化マグネシウム。

窓(まど)

★窓にはガラスだけでなく、木や紙などを使ったものもあります。また、ドーマー窓と呼ばれる飾(かざ)りのための窓や、開くことのできない明かりとりの窓など、材料(ざいりょう)や、使い方の違(ちが)うたくさん種類があります。

★開拓の村の建物の窓には、鉄(てつ)の棒(ぼう)がついているものがあります。防犯(ぼうはん)、デザインなどの理由が考えられますが、大切なガラスが、盗(ぬす)まれたり壊(こわ)れたりしないように守っているのかもしれない。



さあ、開拓の村の建物をみんなの家とくらべてみよう!